

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善策		
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・教育計画	① 教育目標の設定	全教職員が共通理解できる教育目標の設定	教育目標をめざす副題として「学ぶ力・心の力・体の力を高め、新時代を生きる力を育成する」を共通理解した。	B	学校評価アンケート(教職員) 「教育目標の共通理解」肯定的評価83%	教職員の共通理解を更に進め、地域・保護者への周知を進めていく。		
		② 教育計画の作成	「学ぶ力(学力向上)・心の力(人権教育・生徒指導の充実)・体の力(体力向上)」を育む教育目標の作成	教育ビジョンに基づき、前年度の総括を踏まえた教育計画が作成され、共通理解が図れた。	B		学校評価アンケート(保護者) 「特色のある教育活動の工夫」肯定的評価95%	教職員の共通理解を更に進め、計画に沿った教育活動の工夫を行っていく。	
		③ 教育課程の編成	基礎・基本の定着を図る取組と豊かな人権感覚を育てる取組を充実にさせる教育課程の作成	研究主題に基づいた授業改善と学力補充体制の充実を柱に教育課程を編成した。	B		学校評価アンケート(教職員) 「教育課程編成の話し合い」肯定的評価83%	研究主題の共通理解が弱かった。研究の切り口をより具体的なものにしていく。	
		④ 教育活動の評価	児童・保護者・教職員の学校評価アンケートから検証	2学期末に実施し、分析し改善策を検討した。	B		学校評価アンケート(教職員) 「教育活動の評価」肯定的評価83%	保護者アンケートの回収率が昨年より低かった。デジタルでのアンケート実施方法を検討する。	
	(2) 教科指導 ※道徳科含む	① 学習指導計画の立案	新指導要領をふまえた年間指導計画の作成	教職員で話し合い作成して取り組んだ。	B	B	学習指導要領をふまえて計画を立てた。	引き続き学習指導要領の趣旨を踏まえた計画を立てていく。	
		② 学習内容の精選	新指導要領をふまえた学習内容の精選	低中高学年部会で話し合うなどして、組織的に取り組んだ。	B		学校評価アンケート(児童) 「授業はわかりやすい」肯定的評価91%	新学習指導要領に対応した学習内容の精選を組織的に進めていく。	
		③ 指導方法の工夫改善	「聞く・話す」力を育てる指導方法の工夫改善	授業方法や指導内容等の実践交流と検証を学年部会でを行い、全体で話し合うことで共通理解を図った。	B		学校評価アンケート(保護者) 「子どもにわかりやすい授業」肯定的評価95%	授業方法や指導内容等の実践交流と検証を学年部会でを行い、研究授業を実施して全体で話し合う。	
		④ 評価	児童・保護者・教職員の学校評価アンケートから検証	2学期末に実施し、分析し改善策を検討した。	B		学校評価アンケート(教職員) 「指導法の工夫・改善」肯定的評価100%	保護者アンケートの回収率をさらに上げる工夫を考える。	
	(3) 道徳教育	① 全体計画の立案	新指導要領をふまえた全体計画の作成	教職員で話し合い作成して取り組んだ。	B	B	新学習指導要領をふまえた内容により検討を加えたい。	新学習指導要領に即した計画を立てていく。	
		② 学習指導計画の立案	新指導要領をふまえた年間指導計画の作成	教職員で話し合い作成して取り組んだ。	B		校区の実態に即した人権教育との兼ね合いに留意し指導計画を今後も検討していく必要がある。	人権教育に留意した指導計画を年度当初に提示する。	
		③ 学習内容の精選	新指導要領をふまえた学習内容の精選	教職員で話し合い作成して取り組んだ。	B		新学習指導要領をふまえ、より精選していきたい。	実践をしたことを検証し、次年度に引き継ぐ。	
		④ 指導方法の工夫改善	児童の実態をふまえた指導方法の工夫改善	低中高学年部会で話し合うなどして、組織的に取り組んだ。	B		研究授業を実施し、全体で話し合うことができた。	低中高学年部会で話し合う時間を設定し、組織的に取り組む。	
	(4) 特別活動	① 学級活動・学級経営	児童や学級集団の実態把握に努め、全体で話し合うなどして、組織的に取り組んだ。	児童や学級集団の実態把握に努め、全体で話し合うなどして、組織的に取り組んだ。	B	B	毎月の会議後に全教職員が児童の様子を伝える時間を取るなど、定期的に児童や学級集団の実態把握を行うことができた。	集団づくりの理念や手法についての研修を行う。	
		② 学校行事	魅力ある学校行事の創造	コロナの影響で、予定していた行事がほとんど変更や中止となったが、できる範囲で工夫して行った。	C		学校評価アンケート(児童) 「運動会や遠足などの行事は楽しい」肯定的評価95%	現状を踏まえ、行事の精選と工夫を行っていく。	
		③ 児童・生徒会活動の活性化	学校生活をより楽しく豊かなものにする活動の展開	常時活動のほか学校行事等の役割も担い、高学年児童が学校の成員としての役割を自覚できる機会となった。	B		学校評価アンケート(保護者) 「児童会活動や学校行事に積極的に楽しく参加」肯定的評価9	高学年児童の意欲をより引き出す活動展開を考えていく。	
		④ クラブ・部活動の活性化	児童の興味・関心を生かし主体的に参加する活動の展開	児童の希望を基に4つのクラブを編成し、年間5回実施した。	B		人数の制約もあり全員が希望通りというわけではないが、どのクラブも意欲的に取り組んでいた。	4～6学年児童の意欲をより引き出す活動展開を考えていく。	
	(5) 総合的な学習の時間の指導	① 学習指導計画の立案	児童や地域の実態をふまえた年間指導計画の作成	教職員で話し合い作成して取り組んだ。	B	B	全体研修で指導計画を提案し、計画の共有化を行うことができた。	豊富な地域遺産と出会う系統性のある計画までには至っていない	
		② 学習内容の精選	人権の視点と地域の特性をふまえた学習内容の精選	鼓阪の「ひと」「もの」「こと」に出会う活動を取り入れ、地域の良さや課題に目を向ける学習活動に取り組むことができた。	B		校区内に出かけ、地域のよさを知る活動を行うことができた。	さらに地域における教育資源を発掘し、教材化していく必要がある。	
		③ 指導方法の工夫改善	課題解決のための主体的な学びにつながる指導方法の工夫改善	低中高学年部会で話し合うなどして、組織的に取り組んだ。	B		児童同士が話し合う機会を設定することで、主体的な学びにつなげることができた。	児童の意欲をより引き出す活動展開を考えていく。	
		④ 評価	児童の実態をふまえた指導方法の工夫改善	保護者アンケート「学校は地域と連携して教育を進めようとしている。	B		学校評価アンケートでは、98%が肯定的回答。	地域の教育資源や人材をさらに掘り起こし活用する必要がある。	
(6) 人権教育	① 人権教育推進計画の立案	児童や保護者・地域の実態をふまえた推進計画の作成	教職員で話し合い作成して取り組んだ。	A	A	全体研修で推進計画を検討し、計画の共有化を行うことができた。	教職員の共通理解を更に進め、計画に沿った教育活動を行っていく。		
	② 学習内容の精選	地域の特性をふまえた学習内容の精選	各学年で取り組む重点教材や人権学習参観について低中高学年部会で話し合うなどして、組織的に取り組んだ。	B		学校評価アンケート(保護者) 「人権を大切に、いじめのない学級づくり」肯定的評価95%	指導内容の検証を学年部会でを行い、次年度に引き継ぐ。		
	③ 指導方法の工夫改善	児童に当事者性を意識づける指導方法の工夫改善	学期ごとに取組を全体で交流するなど、組織的に取り組んだ。	A		重点教材について、全学年が取組を報告し工夫改善を図った。	研究授業を実施し、指導方法の工夫改善を全体で話し合う。		
(7) 生徒指導	① 組織的な生徒指導(校内・校外・小中連携)	教職員全体で取り組む体制を整備	毎月生徒指導推進委員会を開き、生徒指導に係る現状の把握に努め、指導の焦点化を図った。	B	A	学校評価アンケート(教職員) 「生徒指導において組織的に対応できる体制」肯定的評価75%	問題事象に関わる情報の集中化など生徒指導推進体制を見直し、組織強化を図る。		
	② 問題行動の予防と指導	問題行動への教職員の一貫性のある対応	常に状況把握に努め、一貫性のある組織だった対応に努めた。	A		学校評価アンケート(保護者) 「社会のルールやマナーの指導」肯定的評価100%	問題行動への対応に、学校としてぶれが生じないよう、研修等を行い、共通理解を図る。		
	③ 教育相談・児童生徒理解	児童理解に努め迅速に話し合う体制の整備	毎月教育相談校内委員会を開き、情報収集に努め、会議等で共通理解を図った。	B		学校評価アンケート(保護者) 「子どもの悩みや友達の問題に対応」肯定的評価95%	問題事象に関わる情報の集中化により事象への早期対応を図る。		
	④ 家庭・地域との連携	家庭・地域との連携体制の整備	担任を中心にしてできるだけ複数で対応し、連携が図れるように努めた。	B		学校評価アンケート(保護者) 「保護者からの相談や要望に対応」肯定的評価100%	初期対応は迅速かつ丁寧に行うことにより、保護者からの信頼を得ていく。校内的には、報連相を徹底する。		
	⑤ 関係諸機関との連携	関係機関との連携体制の整備	関係機関との連携を密にし、必要に応じて話し合いを持った。	A		学校評価アンケート(教職員) 「家庭や関係機関との緊密な連携」肯定的評価92%	関係機関とより一層の連携強化を図る。場合によっては、複数の関係機関が集まり、ケース会議をもつようにする。		
	⑥ いじめの問題について	・いじめへの対処方針や指導計画の明確化	アクションプランに基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期対応につながる指導に取り組んだ。	アクションプランに基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期対応につながる指導に取り組んだ。		A	A	「なかまを考える日」を毎学期設定して取組を行うとともに、系統的に人権学習重点教材を決め実践している。	いじめの未然防止・早期発見・早期対応につながる教育活動を更に取り組む。
		・日頃よりのいじめの実態把握・早期発見	担当者間で毎日情報共有し、早期発見に努めた。	担当者間で毎日情報共有し、早期発見に努めた。		A		学校評価アンケート(保護者) 「人権を大切に、いじめのない学級づくり」肯定的評価91%	ICTなども活用しながら、教職員が日常的に気づいたことを情報共有できる仕組みを整える。
		・各学級の状況の学校組織として共有	担当者間で毎日、全体で月1回情報共有した。	担当者間で毎日、全体で月1回情報共有した。		B		毎月の会議後に全教職員が児童の様子を伝える時間を取るなど、定期的に児童や学級集団の実態把握を行うことができた。	ICTなども活用しながら、教職員が日常的に気づいたことを情報共有できる仕組みを整える。
		・保護者や地域との連携	担任を中心にしてできるだけ複数で連携が図れるように努めた。	担任を中心にしてできるだけ複数で連携が図れるように努めた。		B		学校評価アンケート(保護者) 「保護者からの相談や要望に対応」肯定的評価100%	保護者への対応には複数で当たれるよう、全教職員の共通理解を徹底する。
	(8) キャリア教育	① 組織的なキャリア教育	児童の実態をふまえた推進計画の作成	教職員で話し合い作成して取り組んだ。		B	B	全体研修で推進計画を提案し、計画の共有化を行うことができた。	教職員の共通理解を更に進め、計画に沿った教育活動を行っていく。
③ 指導方法の工夫改善		「関わる力」「活用する力」「挑戦する力」「見通す力」を身につけさせる指導方法の工夫改善	低中高学年の重点目標について、低中高学年部会で話し合うなどして、組織的に取り組んだ。	B	学校評価アンケート(教職員) 「指導方法の工夫改善」肯定的評価100%	授業方法や指導内容等の実践交流と検証を学年部会や全体で話し合う際に、キャリア教育の視点を踏まえる。			
④ 勤労観・職業観に関する指導		多様な進路選択につながる「未来をひらく」「社会をつくる」「なかまをつながる」能力を育成する指導	地域に出かけたり地域の人といっしょに活動したりする授業を多く取り入れた。	B	学校評価アンケート(児童) 「校外学習や地域の人と一緒に活動は楽しい」肯定的評価87%	指導内容の検証を学年部会でを行い、地域人材の確保も含め次年度に引き継ぐ。			
⑤ 家庭・地域社会との連携		家庭・地域との連携体制の整備	地域の支援が継続して得られるよう丁寧な対応を心がけた。	B	学校評価アンケート(保護者) 「地域と連携して教育を推めようとしている」肯定的評価98%	安全見守りへの配慮も含め、地域への啓発がまだまだ不十分である。具体的な支援内容を示し、地域に協力を求めていく。			
② 特別支援教育の推進体制		教職員全体で取り組む体制を整備	毎月特別支援教育推進委員会を開き、児童の実態把握に努め、支援の共通理解を図った。	B	学校評価アンケート(教職員) 「特別支援教育の充実に向けた話し合いや研修」肯定的評価8	教職員の共通理解を更に進め、体制の整備をより一層進めていく必要がある。			
(9) 特別支援教育	② 特別支援学級での指導方法の工夫改善	個別の教育支援計画の作成と指導方法の工夫改善	教育支援計画をもとに個々の指導について共通理解を図るとともに、学期ごとに支援計画を更新し、指導の工夫改善に努めた。	B	B	特別支援学級児童5名の教育支援計画を作成し、校内委員会にて検討を加え、全体研修で計画を共有し支援に当たることができた。	個別の教育支援計画に沿った支援が、支援員やスクールサポーターなどにも共有できるようにしていきたい。		
	③ 通常の学級での指導方法の工夫改善	個別の指導計画の作成と指導方法の工夫改善	指導計画をもとに個々の指導について共通理解を図るとともに、学期ごとに支援計画を更新し、指導の工夫改善に努めた。	B		特別な支援が必要な児童32名の指導計画を作成し、校内委員会にて検討を加え、全体研修で計画を共有し支援に当たることができた。	個別の指導計画に沿った支援が、支援員やスクールサポーターなどにも共有できるようにしていきたい。		
	④ 家庭との連携	家庭との連携体制の整備	担任を中心にしてできるだけ複数で連携が図れるように努めた。	B		特別支援校内委員会が情報を共有し、多くの教職員が保護者に対応できるよう努めた。	保護者の特別支援教育に対する理解と啓発を進める必要がある。		
	⑤ 関係機関との連携	関係機関との連携体制の整備	こまめな連携を心掛けることで指導の一助となるよう努めた。	B		外部より専門家を招聘して児童観察をおこなっていただき、指導を受けた。	特別支援学級の位置づけや保護者への啓発をどのように進めるか、検討を行う。		
	① 体力向上推進計画の立案	児童の実態をふまえた推進計画の作成	教職員で話し合い作成して取り組んだ。	B		B	全体研修で推進計画を提案し、計画の共有化を行うことができた。	教職員の共通理解を更に進め、計画に沿った教育活動を行っていく。	
② 体育的行事	魅力ある学校行事の創造	個々の行事について総括を行い、改善点の整理に努めた。	B	「つぎスポーツ大会」「なわとび大会」といった児童の課題克服を意識した集会的行事を実施し、事後に総括を行った。	児童の意欲をより引き出す活動展開を考えていく。				
③ 体力テストの活用	体力テストの実施と分析	今年度は実施できた。実施上の留意点を事前に指導するなどして記録向上に努めた。	B	複数学年合同で実施したり、指導のポイントを教職員間で共有するなど、工夫した取組を行った。	中学校と連携するなどして、さらなる指導の充実にも努めていく。				
④ 基本的生活習慣	児童の実態をふまえた指導	児童の実態をふまえた指導	B	学校評価アンケート(教職員) 「保健学習・指導を行い、児童自らの健康管理ができる力を身に付けさせている。」肯定的評価6	児童への指導と共に、保護者の協力が十分でなく、引き続き様々な機会をとらえ啓発し、家庭からの協力を促す。				

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 学 校 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 校長のリーダーシップ	サーバントリーダーシップの発揮	教職員の能力を肯定し、その力が発揮されることで組織全体が成長できる環境づくりに努めた。	B	学校評価アンケート(教職員) 「学校運営に教職員の意見が反映」肯定的評価92%	教職員の能力を評価し意欲を引き出す学校運営に心がける。
		② 学校経営目標・方針	「鼓阪小学校教育ビジョン」に基づく学校運営	年度当初にビジョンを示し、共通理解を図った。	B	学校評価アンケート(教職員) 「教育目標を共通理解している。」肯定的評価83%	教職員の共通理解を更に進め、教育活動に反映できるようにする。
		③ 教職員の適正配置と運営への参加意識	適材・適所の人的配置	本人の希望を考慮しながら資質や能力を考えて配置を行い、参加意識を高めた。	B	学校評価アンケート(教職員) 「学校運営に教職員の意見が反映」肯定的評価92%	教職員の規模に見合った校務分掌の工夫改善に取り組む。
		④ 校務分掌等の連携	分掌間のつながりを意識した学校運営	活動ごとの担当が話し合いを持ち、計画・実施した。	B	校務分掌間で連携し行事の計画や総括が行えていた。	個人にかかる仕事量の平均化に取り組む。
		⑤ 会議の運営と位置づけ	意思決定と情報共有を両立させた運営	事前に討議資料を公開することで会議が円滑に進行し、情報共有の時間が確保できた。	B	会議が情報交換と問題解決の場として機能していた。	ICTを活用する等、さらに会議の効率化と情報共有を進めていく。
		⑥ 会議の結果	意思決定の確認と活動ごとの総括	会議後に討議資料を修正して公開することで、意思統一ができた。	B	教職員が声を掛け合い、修正資料の確認や総括の提出ができた。	都度都度にデータの更新を行うことで、共通理解をより図っていく。
		⑦ 職場の人間関係	同僚性の構築と参画意識の発揮	コミュニケーションを図り、職場の同僚性構築に努めた。	B	教職員が互いに理解し合い、協力・協働できる環境ができてい	教職員が日常的に報告し合える関係作りををより一層進める。
		⑧ 学校評価の実施	児童・保護者・教職員の学校評価アンケートを12月に実施	1月にアンケートの分析と考察を行い、教育活動に活かした。	B	全体的な保護者からの肯定的評価は昨年度を上回った。	今後保護者アンケートの回収率をさらに上げていく。
		⑨ 働き方改革の実施	毎週金曜日にノー残業デーを実施	教職員と相談して退勤時刻を設定し、効果的に実施できた。	A	学校評価アンケート(教職員) 「時間外勤務を減らすなど、働き方改革を意識して業務を行っている。	残業時間がさらに減少できるよう、働き方改革を進めていく。
	(2) 研究・研修	① 教員の資質能力向上を目指した組織的・計画的な校内研修の実施	児童の課題に迫る新たな教育内容を創造する研修を組織的に計画・実施	計画的に実施できた。昨年度課題であった特別支援教育や研究主題に関わって、外部からの講師を招聘した研修ができた。	B	学校評価アンケート(教職員) 「計画的に研修を実施し実践に活かしている」肯定的評価75%	本校で課題となっている教育課題について、今後も講師を招聘したり、市教委と連携しながら研修を進め、教職員の資質向上に努める。
		② 授業改善を目指した授業研究の実施	教職員が学び合える公開授業・研究授業の実施	研究授業を実施し、授業改善についての意見交流を深めた。	B	低中高学年部でそれぞれ研究授業を実施し、事後研修を行って授業改善について話し合った。	全学年で授業公開を行い、研修を進めるよう検討していく。
		③ 校外の研修への積極的な参加	教職員の授業力の向上と人権意識の涵養につながる研修への積極的な参加	コロナの影響で、予定していた研修の中止・変更が多かったが、オンラインでの研修を含め、可能な限り参加した。	B	参加した研修には主体的に参加できた。校内での情報共有に努めた。	オンライン研修がさらに多くなっていくことが予想される。オンデマンドでの視聴を含め、積極的に研修するよう声掛けをおこなっていく。
		④ 校外研修内容の報告や伝達	校外研修について報告会・伝達会を実施	主だった研修について必要に応じて研修報告を行った。	B	参加した研修について報告会・伝達会を行った。	研修後の報告会の時間確保、あるいは報告方法を検討する。
	(3) 安全管理	① 学校安全計画の立案	児童や地域の実態をふまえた計画の作成	教職員で話し合い作成し、予定通り取り組めた。	B	水泳時の緊急対応や嘔吐処理など、随時会議や研修で話し合った。	教職員の共通理解を更に進め、計画に沿った教育活動を行っている。
		② 学校防災計画の立案	児童や地域の実態をふまえた計画の作成	教職員で見直しを行い、計画の確認を行った。	B	児童引き渡し訓練や1・17集会などの連携・教育活動を行った。	教職員の共通理解を更に進め、計画通りの対応ができるよう備えを怠らないようにする。
		③ 危機管理体制の整備	児童や地域の実態をふまえた体制の整備	不審者対応として校内にある門の錠強化を行った。	B	学校評価アンケートをもとに体制を見直し整備した。	「悲観的に予測する」という危機管理の鉄則に立ちかえり、教職員の危機管理意識を高める。(安易な楽観視を排除)
		④ 安全指導の工夫改善	児童や地域の実態をふまえた指導の工夫改善	地震対応の避難訓練と併せて1・17集会を実施し、児童の意識の涵養に取り組んだ。	A	学校評価アンケート(保護者) 「学校は、安全への配慮がなされ、安全確保に努めている。」肯定的評価95%	従来の取組を工夫改善するとともに、あらゆる機会を通じて、児童の危機管理意識を高める。
		⑤ 家庭との連携	家庭との連携体制の整備	警報発令時や緊急時の対応など、保護者への周知に取り組んだ。	B	学校評価アンケート(保護者) 「緊急時の対応について知らせている」肯定的評価93%	従来の取組を工夫改善するとともに、あらゆる機会を通じて、保護者の危機管理意識を高める。さらなるさくら連絡網の活用。
		⑥ 関係機関との連携	関係機関との連携体制の整備	コロナの影響で、地区の自主防災防犯会と会合等をもつことができなかった。	C	防災訓練や消防訓練などが中止となり、参加できなかった。	コロナ禍において、従来の取組が、より地域と学校が協働で行う取組となるよう検討する。
	(4) 保健管理	① 学校保健計画の立案	児童や地域の実態をふまえた計画の作成	教職員で話し合い作成し、予定通り取り組めた。	B	全校集会や身体測定等の様々な機会をとらえ指導に当たった。	教職員の共通理解を更に進め、計画に沿った教育活動を行っている。
		② 心のケアや健康相談の体制の整備	ケアを要する児童の発見・支援に全教職員で取り組める体制の整備	学校スクールカウンセラー訪問日に合わせ、教育相談校内委員会や研修を持つなどして、全教職員で児童の対応に当たった。	B	学校評価アンケート(児童) 「命の大切さについて勉強している」肯定的評価91%	スクールカウンセラーの見立てと教職員の見取りをすり合わせる中で、よりよい指導の在り方を意見等していく。
		③ 健康観察、健康管理能力の育成	日常の健康観察の組織的取組 子どもの自己健康管理能力向上のための取組	健康観察の結果を共有し、組織的に対応に当たった。	B	学校評価アンケート(教職員) 「児童自ら健康管理ができる力の育成」肯定的評価67%	遅刻する児童や朝ごはんを食べない児童が少なからずいる。基本的な生活習慣を身に付けるよう、家庭との連携を図っていく。
		④ 関係機関との連携	関係機関との連携体制の整備	コロナ対策については、市教育委員会や校医とも連携を図り、保健管理にとりくんだ。	B	学校評価アンケート(保護者) 「学校は、安全への配慮がなされ、安全確保に努めている。」肯定的評価95%	今年度は学校保健委員会は書面での開催となった。対面式の開催を模索するとともに、改めて保護者との連携を図っていく。
		⑤ 学校給食の衛生管理	日常的な衛生管理の組織的取組	調理員と管理職や給食担当が連携し教職員全体で取り組んだ。	B	毎日給食準備前に顔を合わせ、意見交換を行った。	アレルギー対応児童をいつでも受け入れられる体制づくりが必要である。
(5) 小中一貫教育	① 組織的な運営体制	実務者会議への積極的関与	3つの部会を開催し、情報の共有を図った。	B	校区の校長会で話し合い、3学期に実務者会を開催した。	実務者会の定期的な開催など、運営組織の確立が必要である。	
	② 小中教職員の協働体制	部会への積極的な参加	合同の研修会や他校の授業参観参加ができなかった。	C	学校評価アンケート(教職員) 「こ小連携・小中一貫教育に努めている」肯定的評価67%	リモートでの部会開催など、部会の持ち方についての工夫をしていく。	
	③ 9年間の学びの系統性・連続性を踏まえた教育課程の実施	合同研修会等の積極的な参加	市人教地区別研修会で本校の取組を発信し系統性の確立に努めた。	B	研究部会の方向性について話し合い、次年度につなげた。	人権学習の取組を成果を他教科・領域にどのように広げていくか、また、学校間で共通した取組を検討する。	
	④ 家庭・地域社会との連携・情報発信	HPの有効活用	コロナの影響もあり、具体的な取組ができず、発信ができなかった。	C	学校評価アンケート(保護者) 「小中一貫教育に積極的に取り組んでいる」肯定的評価80%	保護者に小中の連携が見えにくい。小中一貫教育に係るHPの更新を含め、コロナ禍での具体的な取組中学校区で検討する。	
(6) 地域との連携	① 学校情報の発信	学校通信・HP等で情報の発信	学校通信・HP等で児童の様子について知らせた。	A	学校評価アンケート(保護者) 「保護者や地域に学校の様子を発信している」肯定的評価100%	更に閲覧数が伸びるよう、掲載内容の工夫を図る。	
	② 学校(授業)公開	学校の取組を地域に公開	コロナの影響で、地域に学校の様子を公開する機会をもつことができなかった。	C	例年「つぎかフェスタ」で地域の方に直接子どもたちの様子を参観していただく機会があったが、HP等で普段の授業の様子を公開することとまとめた。	コロナ収束の状況をみながら、授業公開の機会をさぐっていく。	
	③ PTAの活性化	PTAとの協働活動の実施	コロナの影響で、定期的な立派指導の他はPTA活動がほとんどできず、協働することが難しかった。	C	PTA活動活動ができない状況で、具体的な取組がなかった。	コロナ収束の状況をみながら、通常のPTA活動ができるよう役員とも協議していく。	
	④ 幼保・高等学校との連携	こ小連携の充実	例年は低学年や6年生が園に行き交流していたが、コロナの影響で、今年度はできず、子育てネットワークでの情報交換にとど	C	学校評価アンケート(教職員) 「こ小連携・小中一貫教育に努めている」肯定的評価67%	事前の打ち合わせ等も含め、より充実した連携を図る。	
	⑤ 学校関係者評価の実施	学校運営協議会小学校部会の実施	書面開催を含め、今年度は3回の部会を開いた。学校の取組を説明したほか、学校評価アンケートの結果や学校通信をもとに情報交換を行った。	B	3回の部会を開催し、学校運営や教育活動について意見をいただいた。	普段から学校の状況をより多く伝え、評価に対する意見をいただく。	
	⑥ 地域教育協議会との連携	学校運営委員会の実施	地域で決める学校予算事業について協議してできる範囲で取組を進めた。	B	学校評価アンケート(保護者) 「地域と連携して教育を進めようとしている」肯定的評価98%	学校の状況をより多く伝え、学校の課題に応じた地域予算の有効活用を考えていく。	
(7) 施設・設備	① 教育環境の整備	教育ビジョンを実現するための環境整備	教職員で話し合い計画の共有化を図った。	C	学校評価アンケート(教職員) 「校内全般に清掃が行き届いている」肯定的評価25%	少ない教職員数・児童数でどのように校内の環境美化を進めていくか。地域の協力も視野に入れて検討する。	
	② 施設設備の有効利用	むだのない施設設備の活用	毎日の活用予定を表で明示し、有効利用を図った。	B	教職員が相互に話し合うことで、無駄の少ない利用につながった。	空き教室の効率的な活用や管理について検討し、より児童が使い勝手が良い教室配置にする。	
	③ 施設設備の管理	危険箇所・補修歌唱の定期点検の実施	毎月一日を安全点検日として危険箇所の点検をした。	B	学校評価アンケート(教職員) 「日常的に点検や管理を行っている」肯定的評価83%	「悲観的に予測する」という危機管理の鉄則に立ちかえり、教職員の危機管理意識を高める。(安易な楽観視を排除)	
(8) 情報管理	① 公文書の收受・保管	正確な文書ファイリング	市のファイリングシステムにそって文書整理をした。	B	ICTの活用により、ペーパーレス化が進んだ。	公文書のデータ化が進む中、クラウド内の文書の整理の仕方について共通理解を図る必要がある。	
	② 公文書の作成	迅速・正確な文書作成	遅滞なく文書を作成した。	B	過去のデータが活用できているが、より効率化を図りたい。	過去データの格納場所の共有化を図る。	
	③ 個人情報の管理・保護	守秘義務の徹底、個人情報の確実な管理	絶えず注意喚起を行い、個人情報の管理に努めた。	B	学校評価アンケート(保護者) 「学校は個人情報の保護について配慮している」肯定的評価100%	個人情報管理場所の施設の徹底や情報機器の管理の徹底など、教職員の管理意識を高める。	
	④ 情報の収集	情報収集の共有化	教職員に呼びかけ、より多くの情報収集に努めた。	B	校務のIT化が進み、情報の収集や共有が容易になった。	必要な情報の共有化と管理について、校内でのルールを作るよう検討する。	